

進化するフリーランスの未来

ーフリーランス実態調査2018ー

Lancers

調査結果をご使用の際は、「【ランサーズ】フリーランス実態調査2018年版」とご記入お願いいたします。

今回の調査概要

2015,2016,2017年に続き、アメリカの調査を参考にオンライン調査を実施

アメリカの調査 ("Freelancing in America")

調査時期：

- 2017年7月21日-8月14日（※昨年は2016年7月29日-8月24日）

調査対象：

- 過去12か月に仕事の対価として報酬を得た米国の成人男女

調査方法：

- 独立調査会社エデルマン・バーランドによるオンライン調査

有効回答数

- 6,000人（うち、フリーランス2,173人）

今回の調査 （「進化するフリーランスの未来」）

調査時期：

- 2018年2月13日-15日（※昨年は2017年2月14日-18日）

調査対象：

- 過去12か月に仕事の対価として報酬を得た全国の20-69歳男女

調査方法：

- 株式会社マクロミルによるオンライン調査

有効回答数

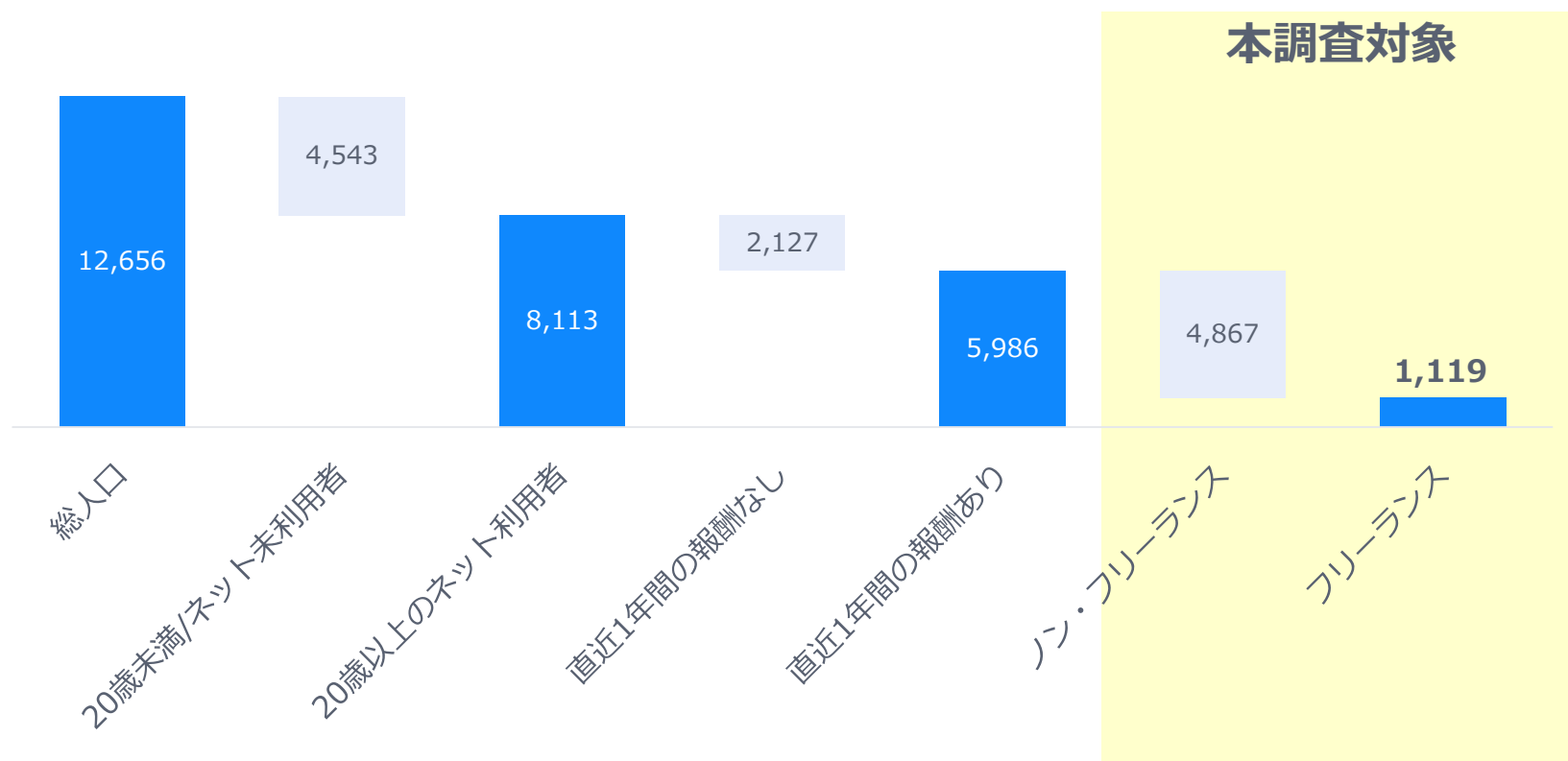
- 3,096人（うち、フリーランス1,550人）

フリーランスの規模

今回の調査対象

日本の広義のフリーランスは1,119万人

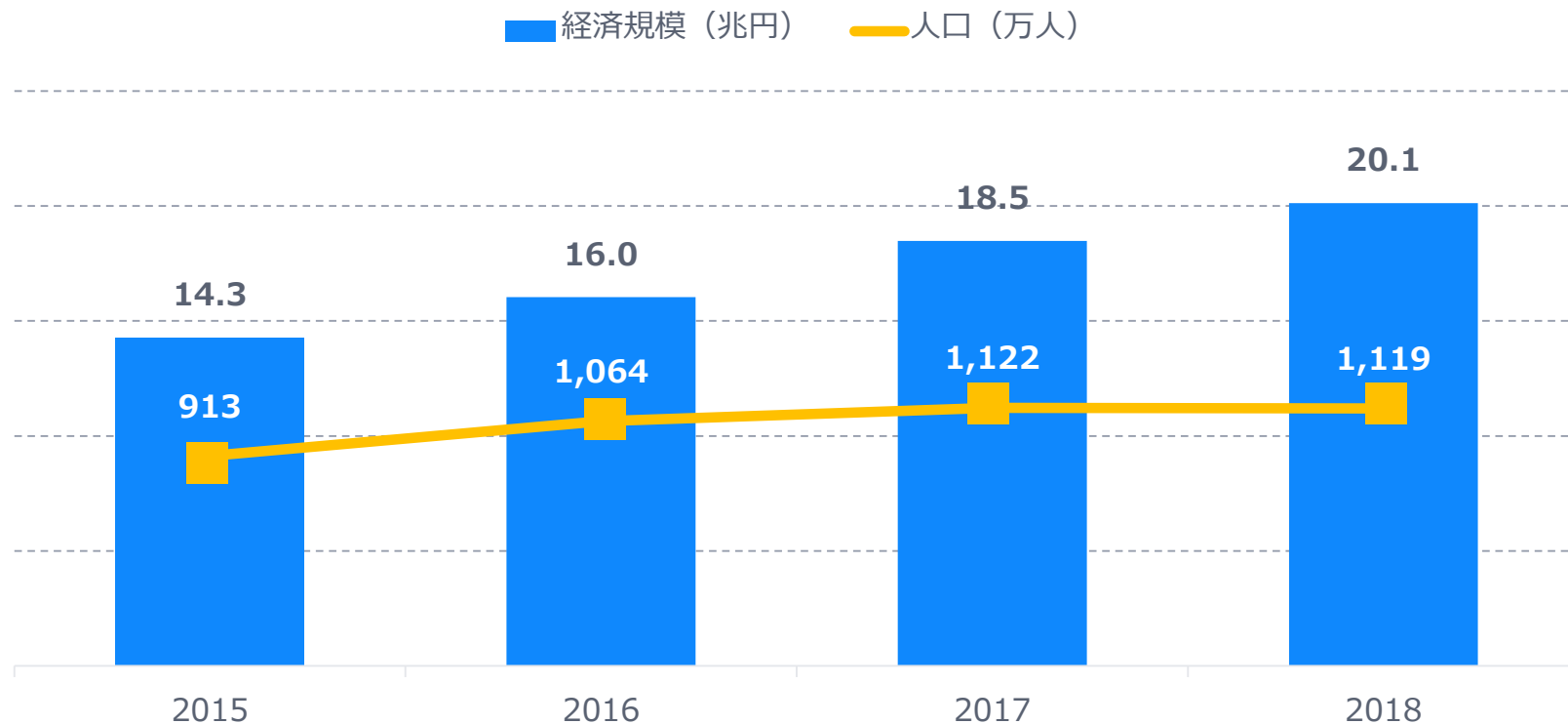
調査結果から想定されるフリーランスの規模（単位：万人）



* 厳密には、インターネット調査を実施しているため、20歳以上でインターネットを利用していないフリーランスは除外されている

フリーランスの経済規模と人口の推移

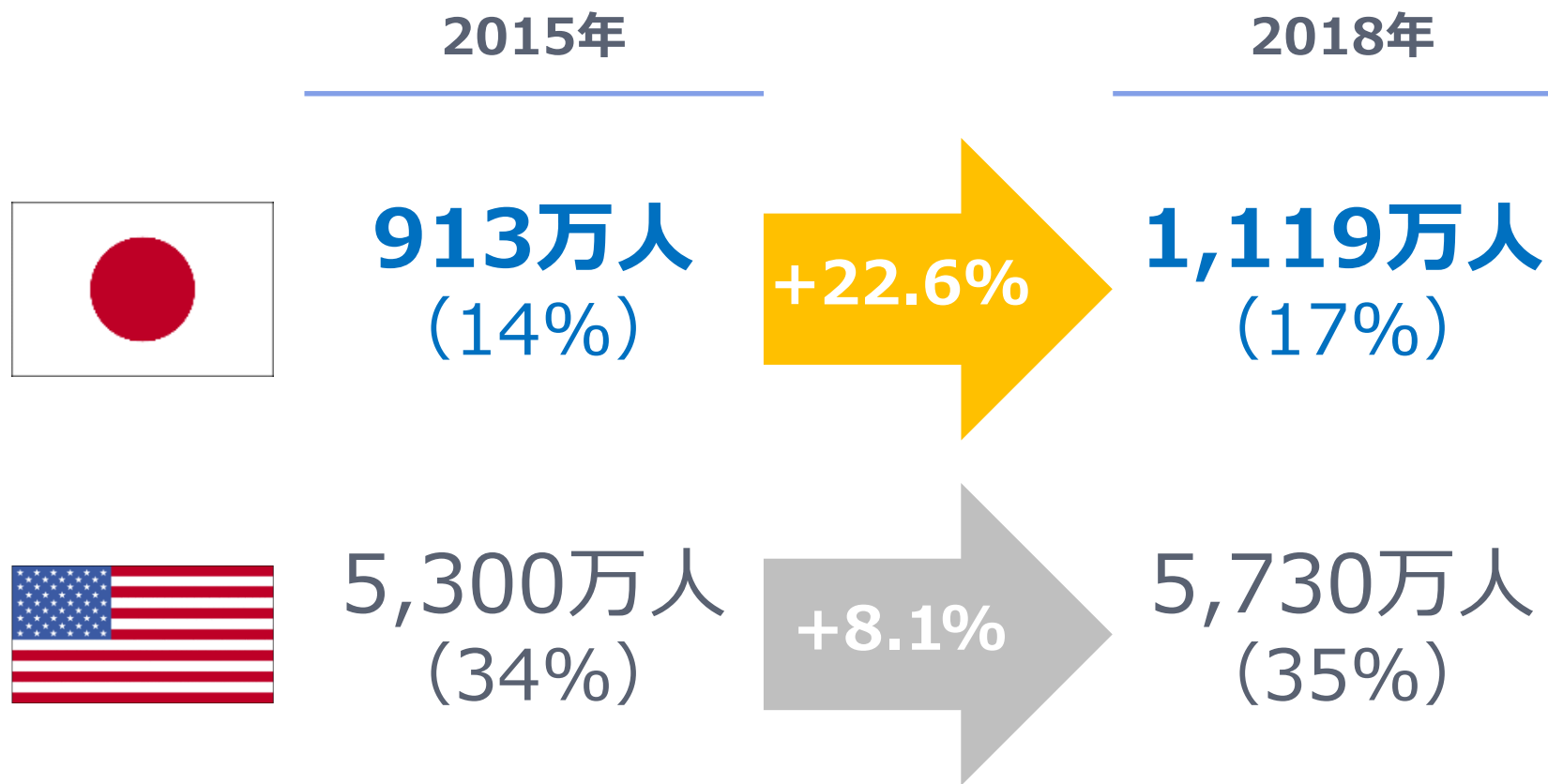
フリーランスの経済規模の成長率はこの4年（2015-2017年）で41%、人口の成長率は22.6%となった。
フリーランス人口は昨年比で横ばい。



*「フリーランス実態調査」（2015.3/2016.2/2017.2/2018.2実施）に基づく

過去4年間の比較

フリーランスの人口の過去4年の成長率は、アメリカの成長率8.1%に比べ約3倍となる。労働力人口比率では17%と増加傾向にある。



* 括弧内は労働力人口に対する比率。日本の調査は「フリーランスに関する実態調査」（2017.2/2018.2実施）、アメリカの調査は“Freelancing in America”（2016.8/2017.8実施）に基づく

フリーランスの経済規模

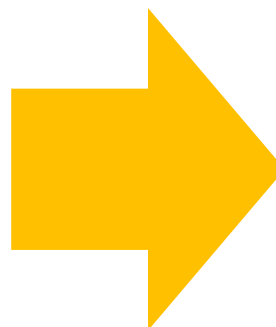
フリーランスの経済規模は20.1兆円で、昨年度比9%増
(アメリカでは>\$1.4Trilion = 約154兆円超の規模)

2017年

2018年



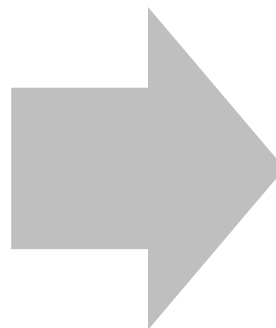
18.5兆円
(165万円)



20.1兆円
(186万円)



>110兆円
(>200万円)



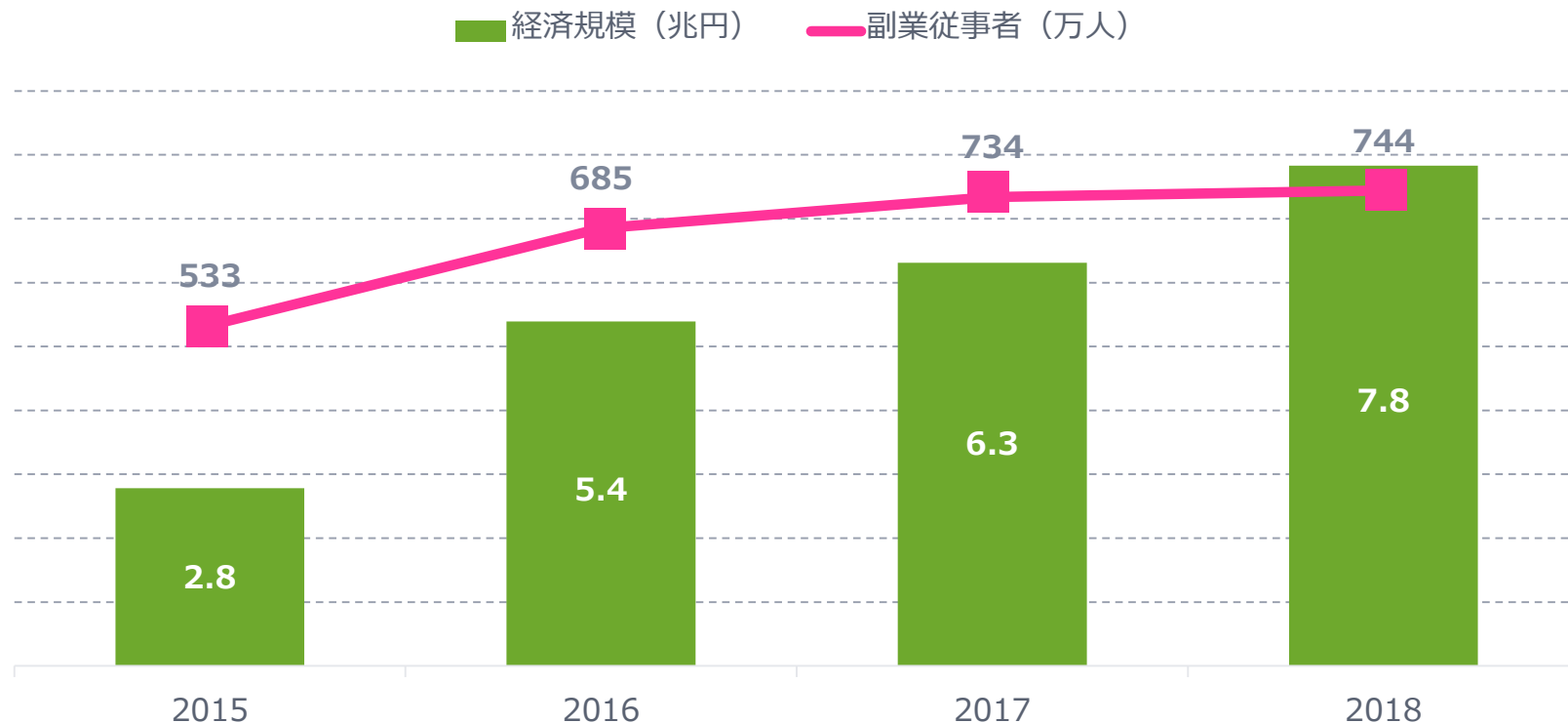
>154兆円
(>260万円)

* 括弧内はフリーランス一人あたりの年間平均報酬額。日本の調査は「フリーランスに関する実態調査」(2017.2/2018.2実施)、アメリカの調査は「Freelancing in America」(2016.8/2017.8実施)に基づく。アメリカにおけるフリーランスの経済規模は\$1.4trillionという記載

副業フリーランスの規模

副業の経済規模と副業従事者の人口推移

副業（本業・副業を区別しない労働者を含む）フリーランスの経済規模はこの4年で3倍となり、8兆円に近い規模に。人口は744万人になり、今後も増加が見込まれる。

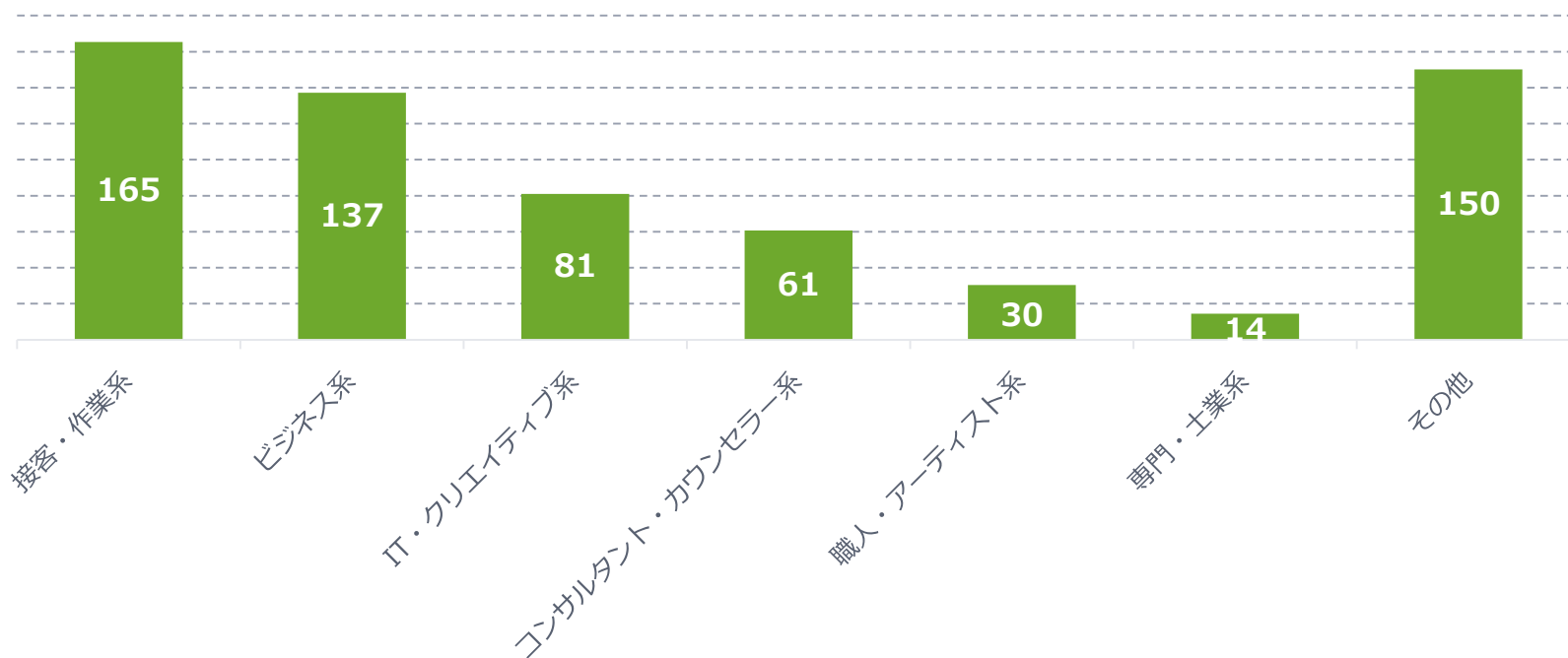


* 「フリーランス実態調査」（2015.3/2016.2/2017.2/2018.2実施）の「副業系すきまワーカー」、「複業系パレルワーカー」の合算値に基づく

副業の職種

副業のフリーランスの職種として接客や作業の仕事のほか、営業などのビジネス系の仕事が全体の半数を超えました。

職種別の副業フリーランス推定人口（単位：万人）



* 「フリーランス実態調査」（2018.2実施）の「副業系すきまワーカー」、「複業系パラレルワーカー」の合算値に基づく

フリーランスのタイプ

フリーランスの種類

フリーランスには4種類のタイプが存在

副業系 すきまワーカー



- 定義：常時雇用されているが副業としてフリーランスの仕事をこなすワーカー
- イメージ例：本業以外のやりがいや生活費の補助を目的に、週の数時間を副業にあてる若年層

複業系 パラレルワーカー



- 定義：雇用形態に関係なく2社以上の企業と契約ベースで仕事をこなすワーカー
- イメージ例：自分のスキルや特技をいかしてフレキシブルなライフスタイルを実践するワーカー

自由業系 フリーワーカー



- 定義：特定の勤務先はないが独立したプロフェSSIONナル
- イメージ例：組織に勤めていたが、定年前の退職や出産を機に自らやりたいことをやるために独立を決めたワーカー

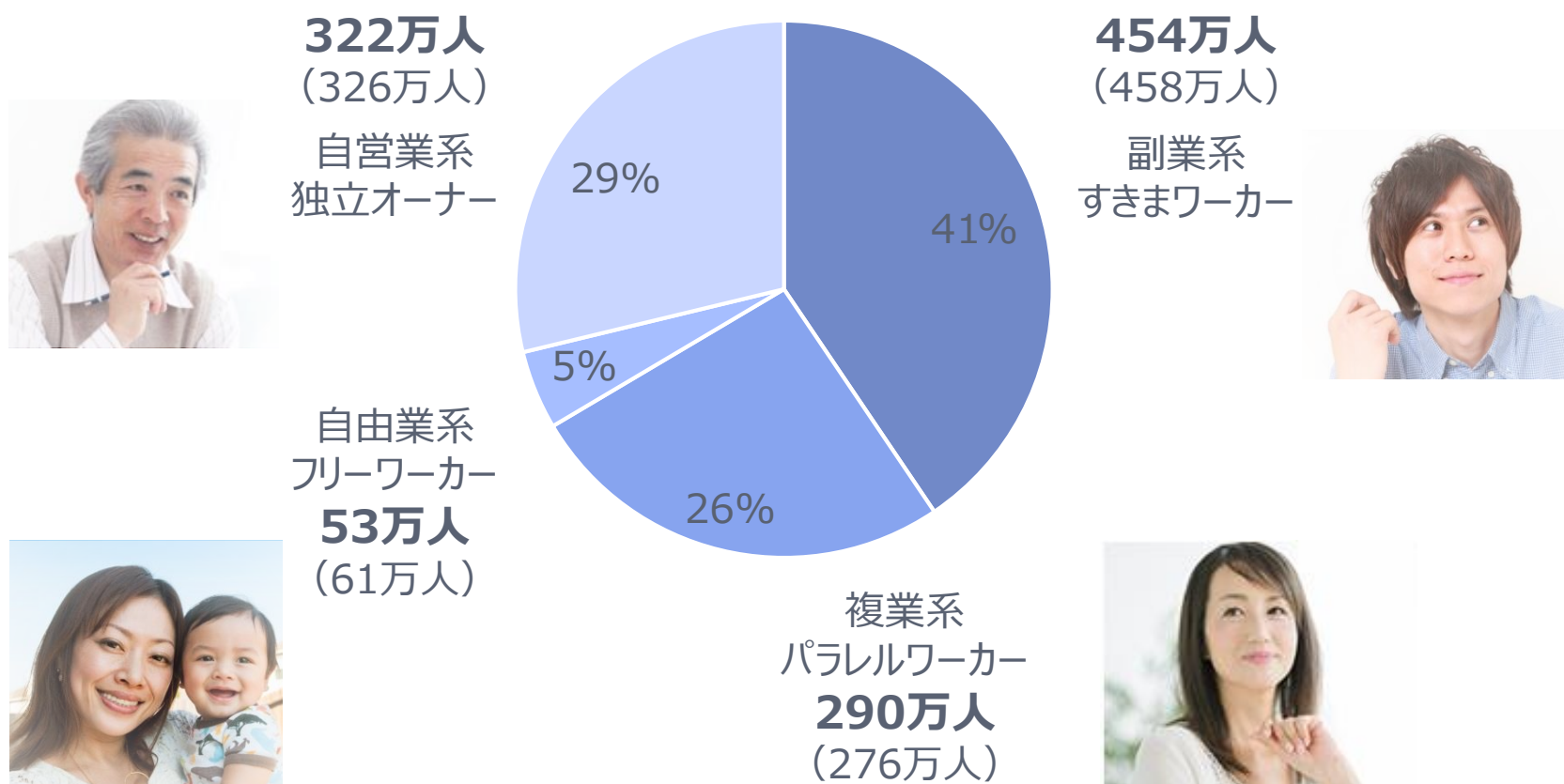
自営業系 独立オーナー



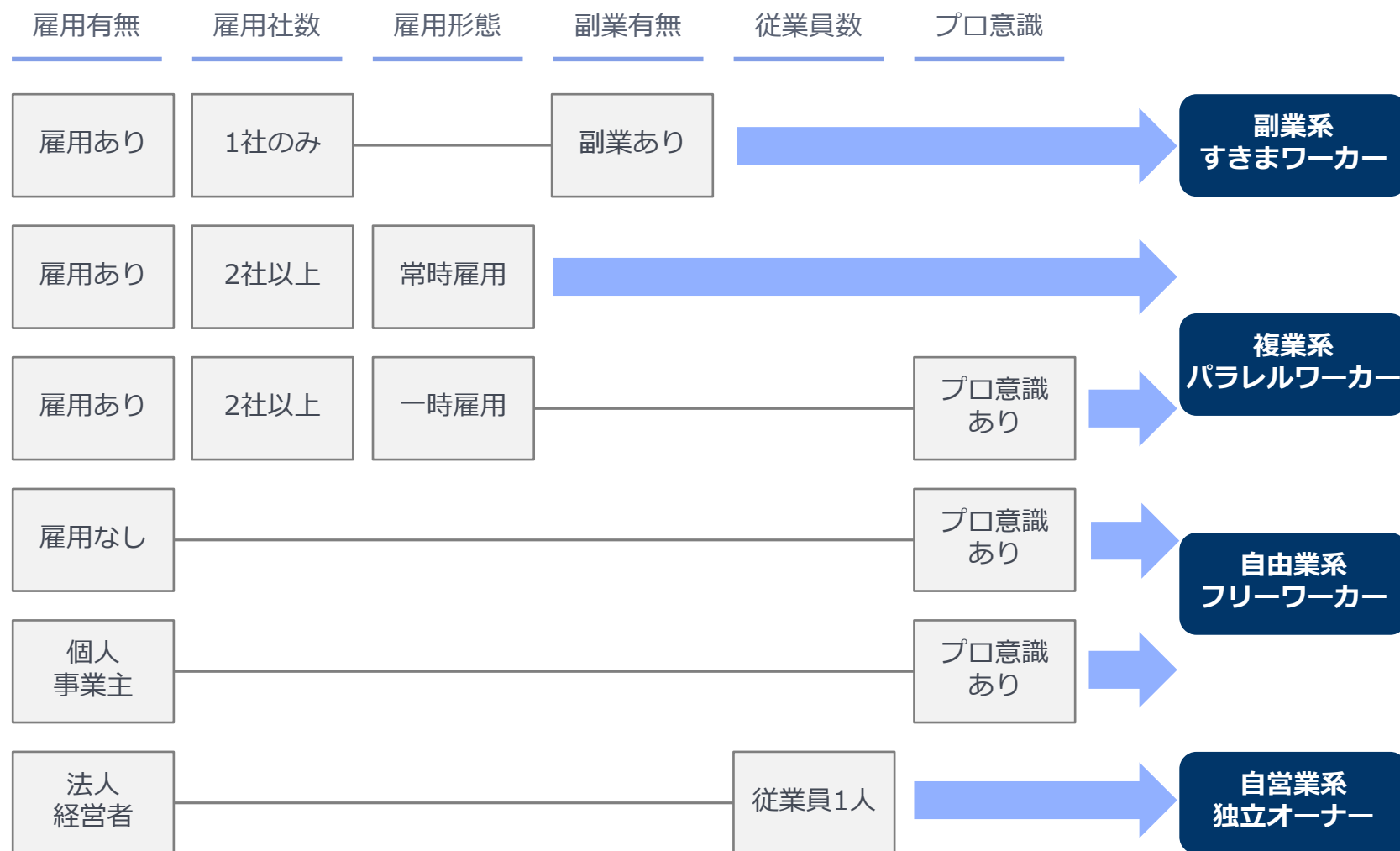
- 定義：個人事業主・法人経営者で、1人で経営をしている
- イメージ例：スキルや資格、顧客資産などを糧に長く自活している独立したプロフェSSIONナル

フリーランスの種類

副業系、自営業系、複業系、自由業系の順に多い。
昨年と比較すると、特に複業系の伸びが大きい。



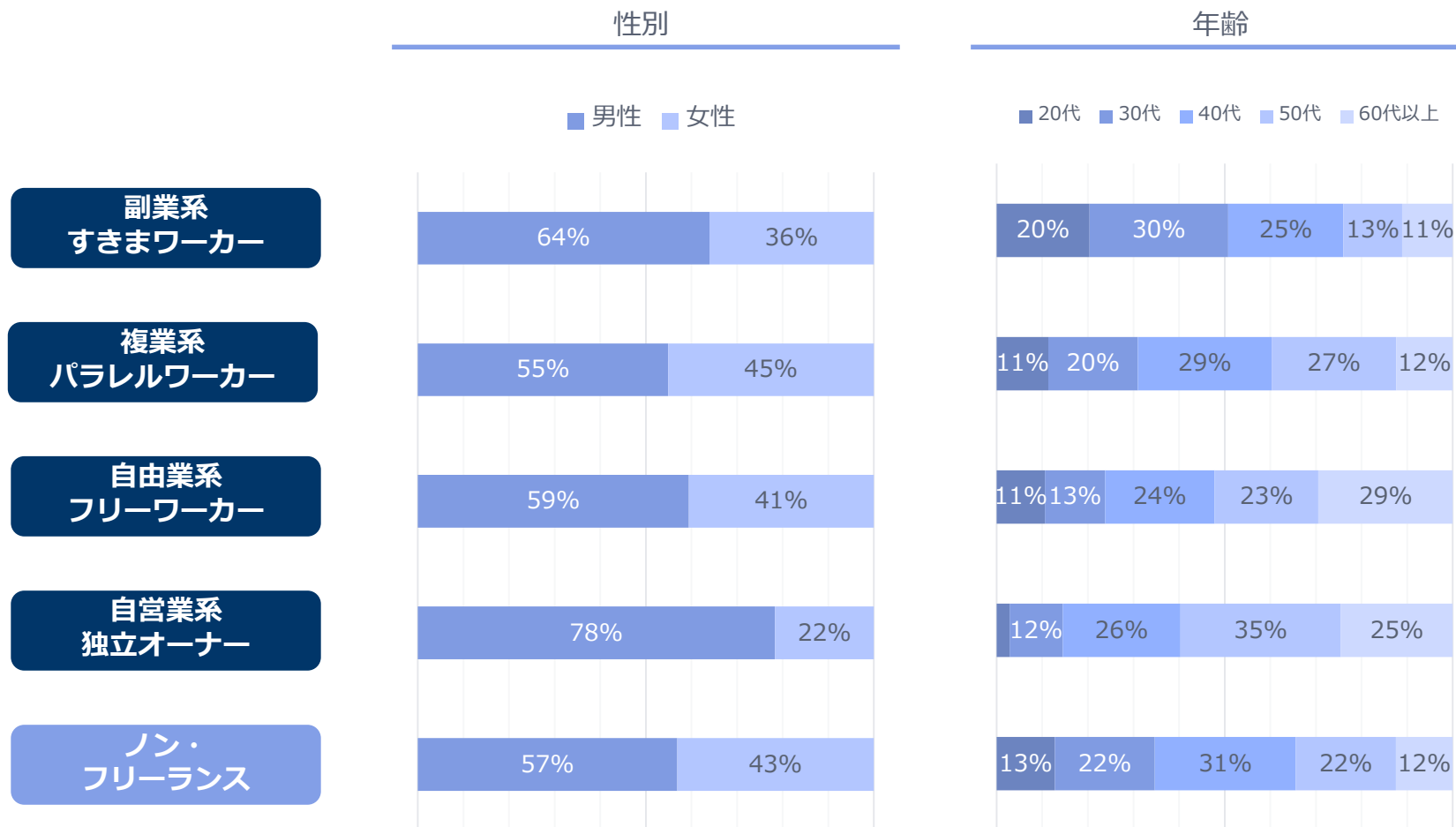
参考：各タイプの詳細な分類定義



* 12か月以内に仕事の対価として報酬を得たワーカー（本調査の対象者）のうち、上記の条件にあてはまらない回答者はすべて「ノン・フリーランス」

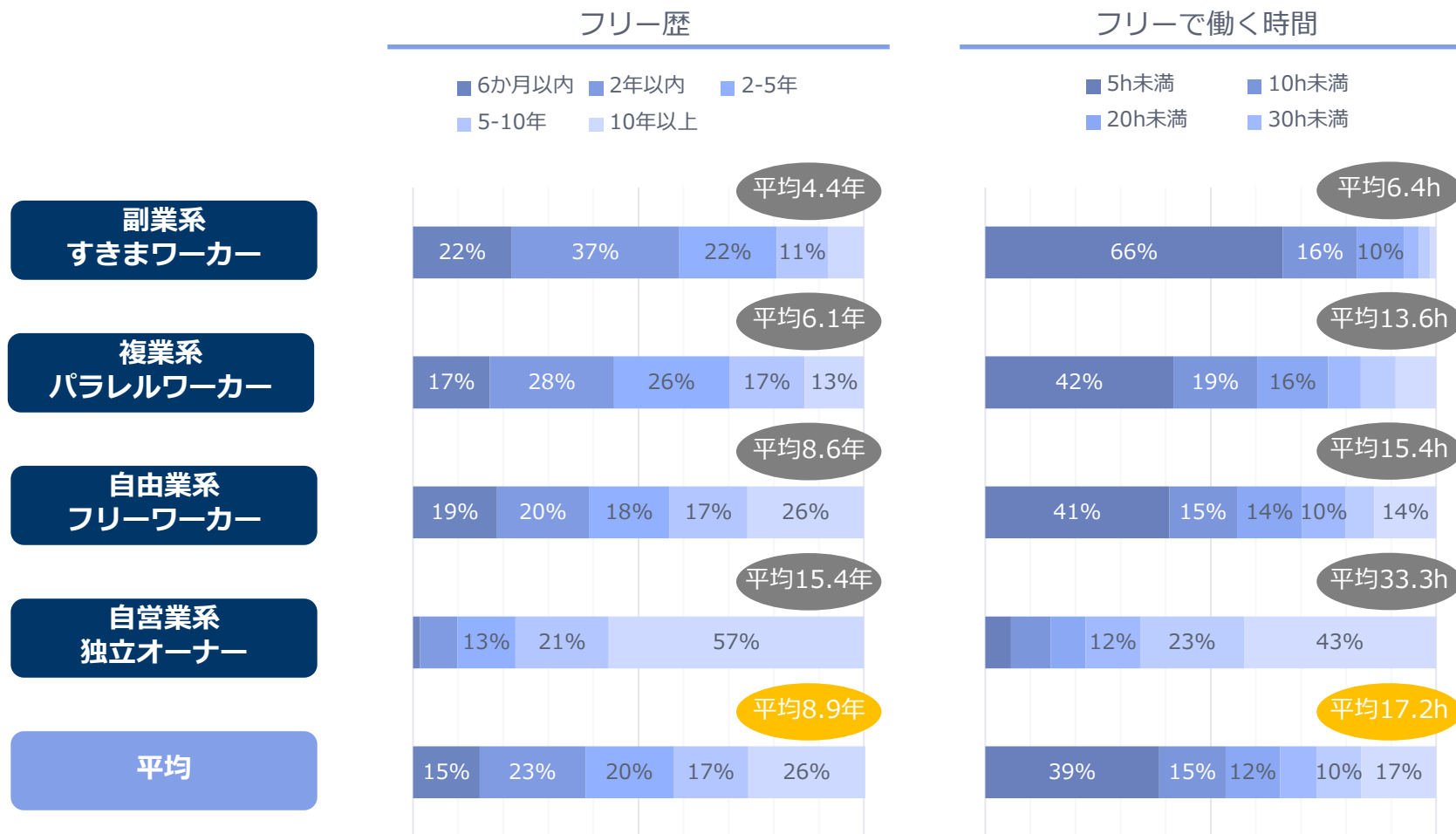
フリーランスの種類：性別と年齢

副業系は若年層、複業系は男性が増加傾向、自営業系は男性シニアが中心



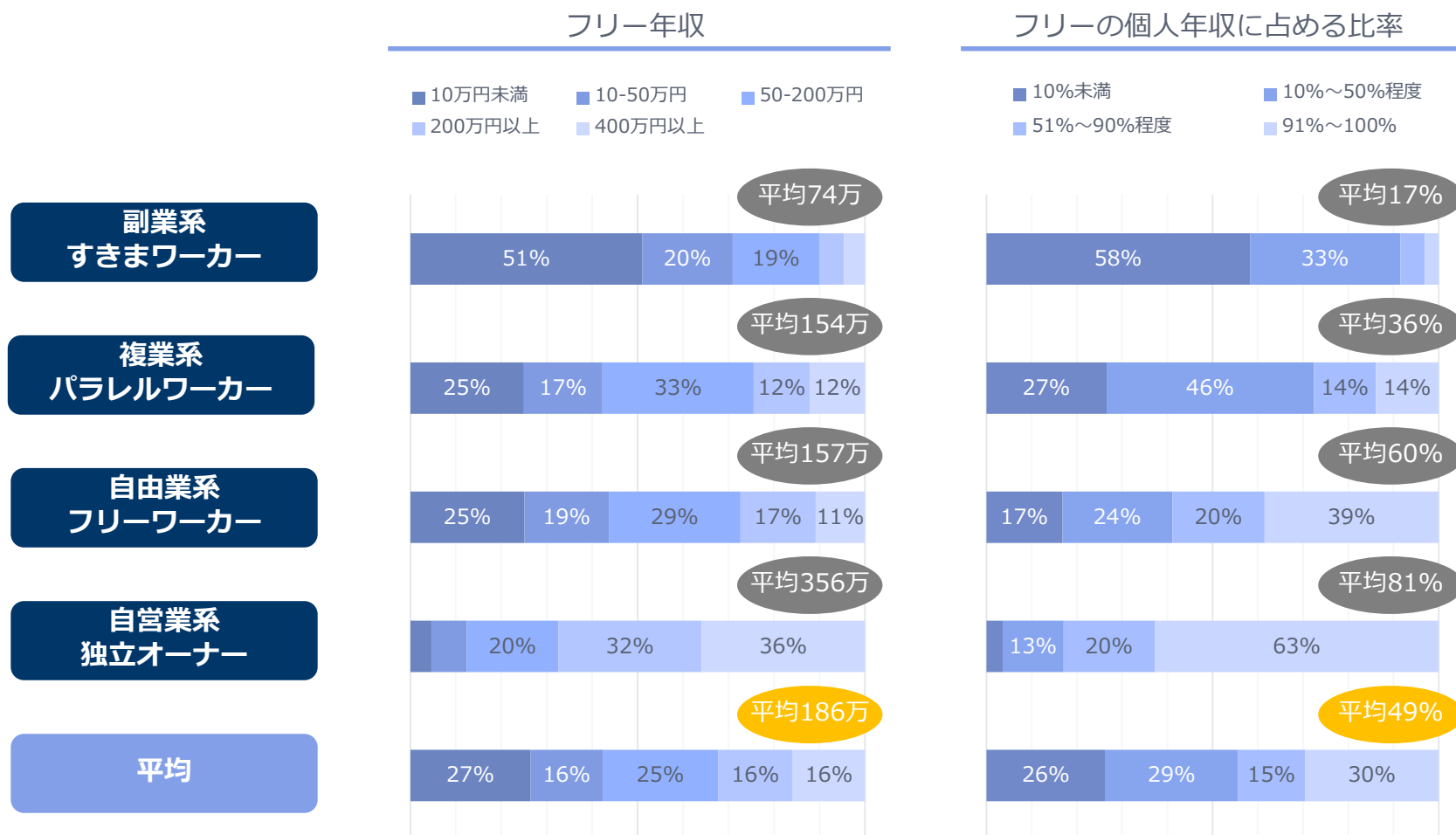
フリーランスの種類：フリー歴とフリーで働く時間

フリーランスへのコミットは副業<複業<自由業<自営業



フリーランスの種類：フリー年収と対個人年収比率

結果、自由業系や自営業系でフリー年収・比率が高い

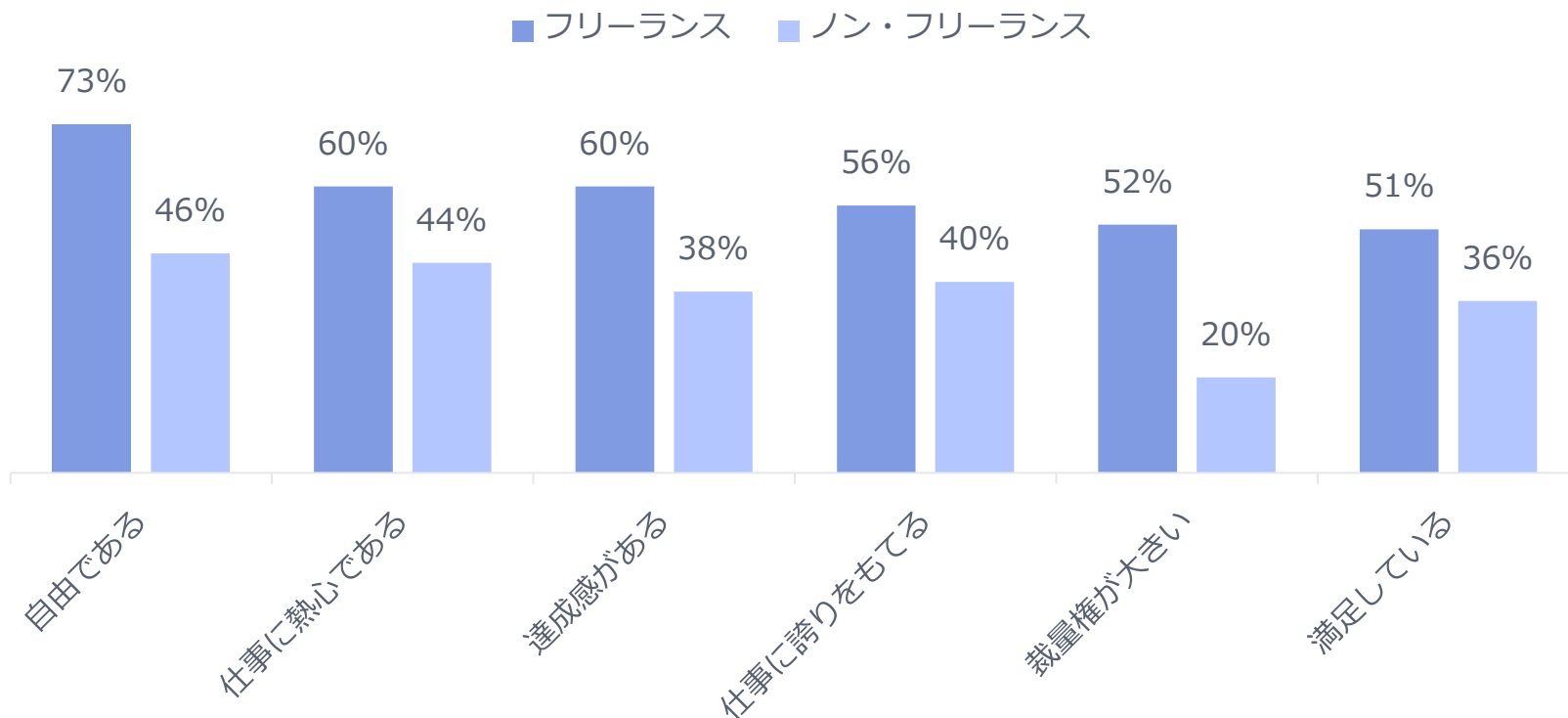


フリーランスの実態

フリーランスの実態：自由な働き方の満足度

フリーランスの仕事に対する満足度はノン・フリーランスに比べて高い

「自由な働き方」の満足度*（「そう思う」「ややそう思う」の割合）

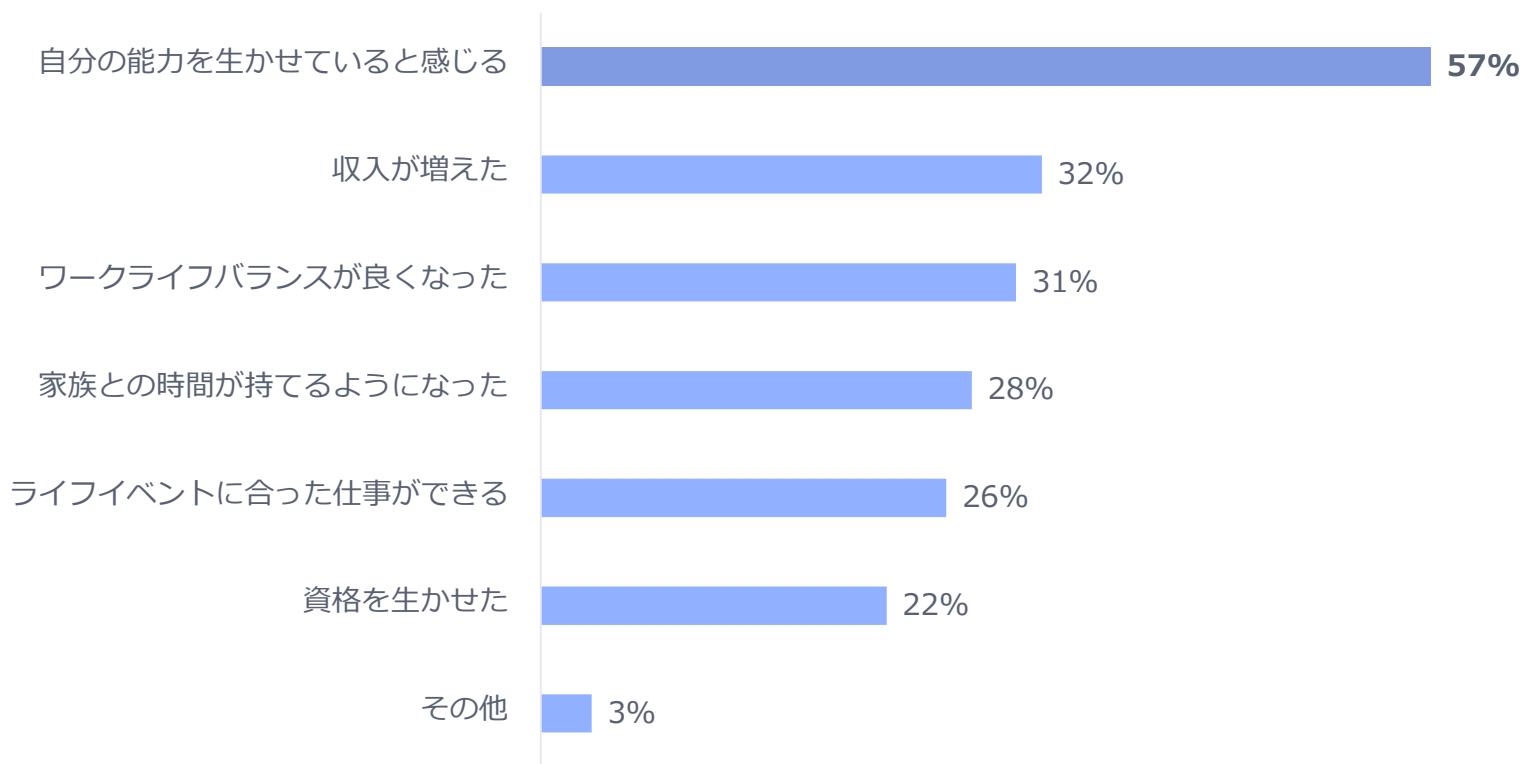


*質問内容は、「あなたの現在の働き方についてそれぞれあてはまるものを選んでください」。回答選択肢は「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも いえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

フリーランスの実態：満足度の理由

仕事の満足理由は「自分の能力がいかせている」こと

「自由な働き方」の満足度*（複数回答）

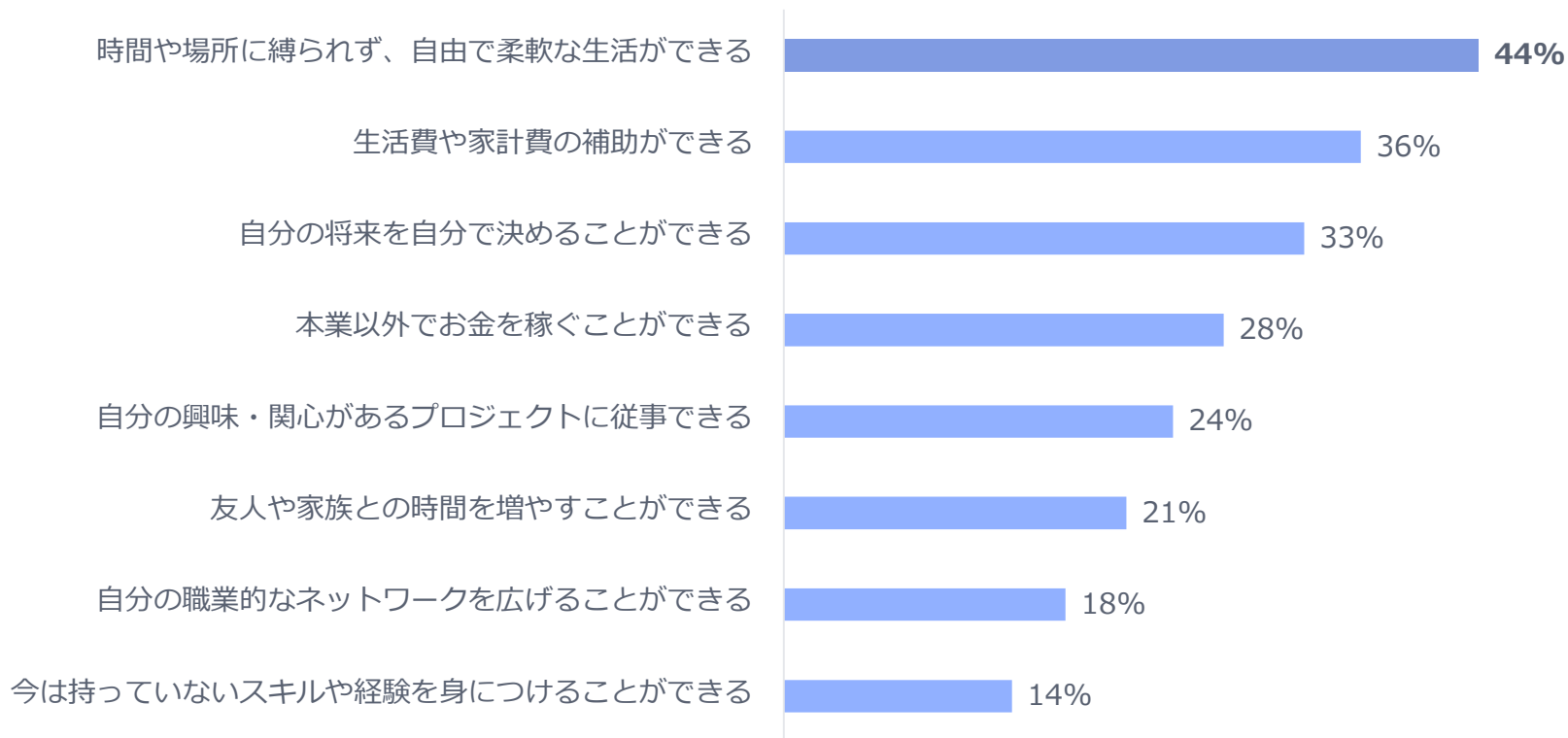


*質問内容は、「あなたが現在の働き方に満足している理由は何ですか？あてはまるものを以下からすべて選んでください。」

フリーランスの実態：自由な働き方のモチベーション

フリーランスのモチベーションは「自由な生活」

「自由な働き方」のモチベーション*（複数回答）

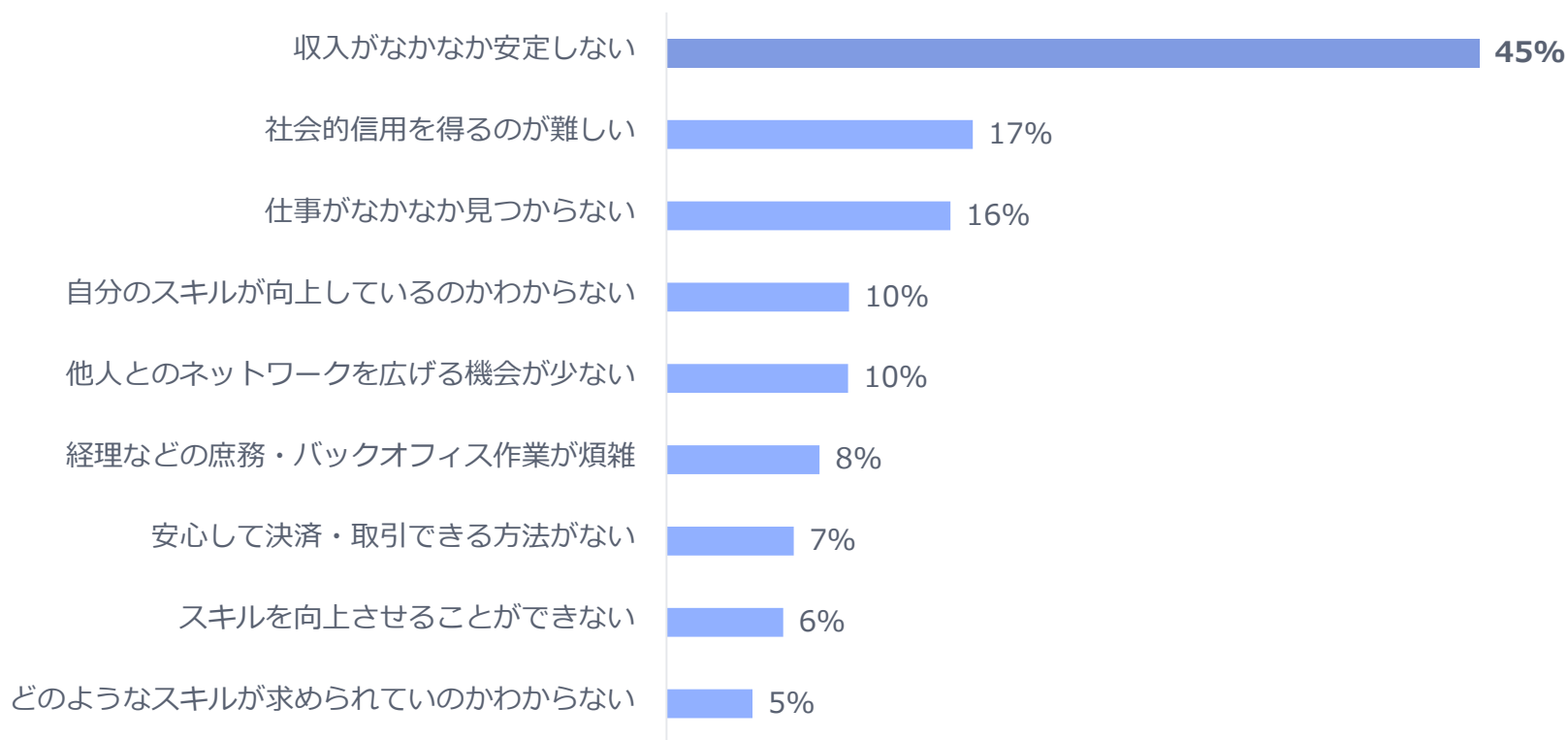


*質問内容は、「あなたが「自由な働き方」（※）を続けていくうえでのモチベーションは何ですか？」（※ここでいう「自由な働き方」とは、一般的 な企業からの雇用形態とは異なる、組織から独立したフリーランスとしての仕事や、副業、2社目の仕事、個人・法人経営などをすべて指します）

フリーランスの実態：自由な働き方の障壁

一方で「収入の不安定さ」が継続の大きな障壁

「自由な働き方」の障壁*（複数回答）

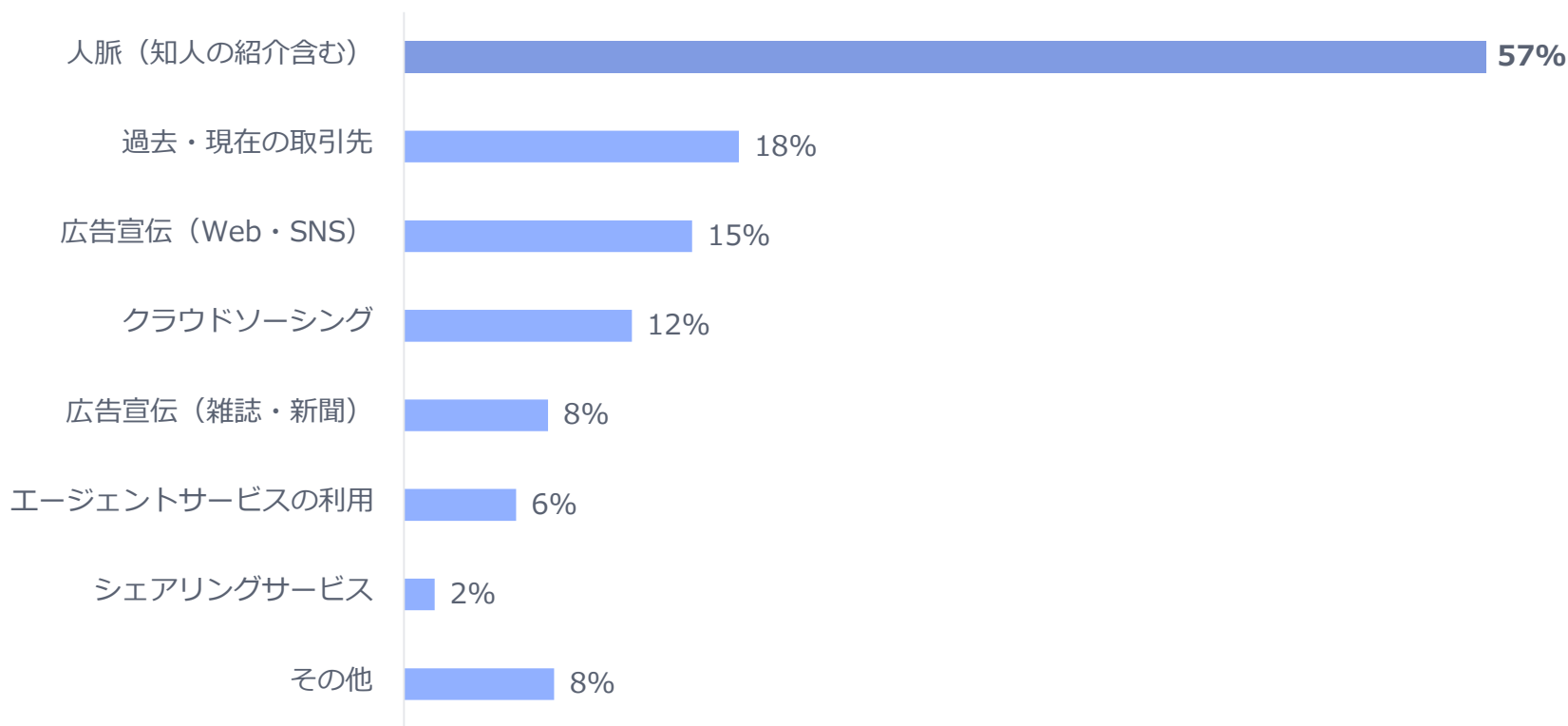


*質問内容は、「あなたが「自由な働き方」（※）を続けていくうえで障壁になっているものは何ですか？」（※ここでいう「自由な働き方」とは、一般的な企業からの雇用形態とは異なる、組織から独立したフリーランスとしての仕事や、副業、2社目の仕事、個人・法人経営などをすべて指します）

フリーランスの実態：仕事を探す経路

仕事探しの大半は人脈から。クラウドソーシング、シェアリングサービス利用の割合は増加傾向にあり

「自由な働き方」の仕事の経路*（複数回答）

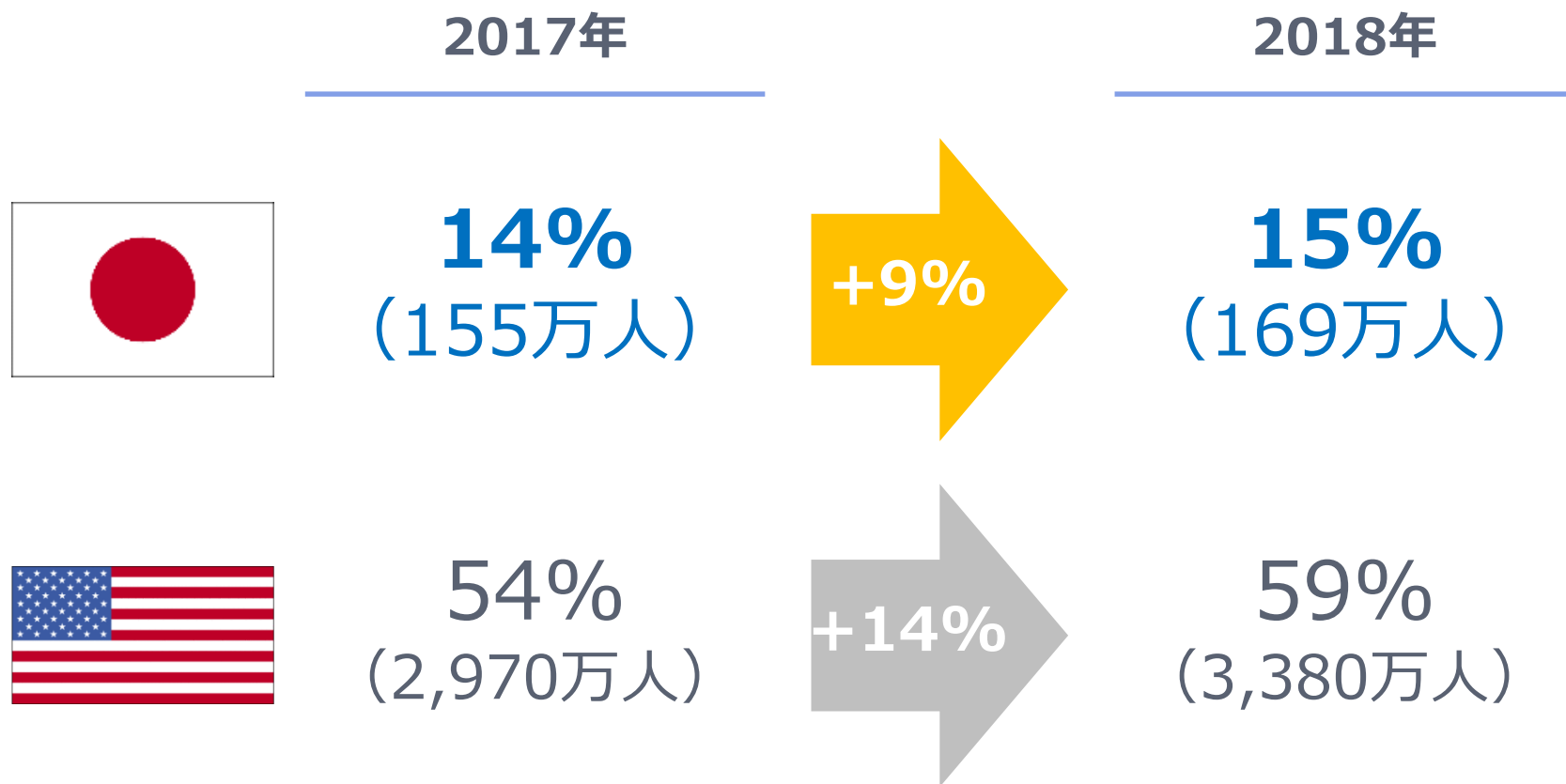


*質問内容は、「あなたが「自由な働き方」（※）を続けていくうえで障壁になっているものは何ですか？」（※ここでいう「自由な働き方」とは、一般的な企業からの雇用形態とは異なる、組織から独立したフリーランスとしての仕事や、副業、2社目の仕事、個人・法人経営などをすべて指します）

フリーランスの実態：インターネットの利用

フリーランスのオンライン化は、アメリカに比べるとまだ まだ進んでおらず、今後伸びる余地が大きい

オンラインでフリーランスの仕事を見つけ、受注し、納品したことのある人の割合（推定人数）



フリーランスの実態：「フリーランス」のイメージ

自由でやりがいがある働き方だが、常に自己責任が求められる。収入が不安定だという声もあった。

あなたは「フリーランス」という言葉にどのようなイメージをお持ちですか（自由回答）

「自由でやりがいのある、達成感を見出せると共に常に向上心を持って働くことが出来そう」（20代男性、ノン・フリーランス）

「企業に頼らない生き方。自分で仕事の管理から、自分の裁量で、仕事ができる。達成感が、全然違うと思う。今は、勉強中で、結果は出てないが、結果が出せるようになれば、最高である。」（60代男性、自由業系フリーワーカー）

「自分の裁量で自由に仕事ができ、うまく行けば大きな収入を得ることができる。しかし、自分で常に仕事をとってくる必要があり、収入を安定させるのが非常に難しい職業だと思う。」（30代男性、副業系すきまワーカー）

「仕事の枠にとらわれず、幅広く仕事ができる。自分の資格や経験に見合った働き方ができる。自分で自分のワークバランスを統制できる。」（40代女性、複業系パラレルワーカー）

「組織の中で行動するのではなく、常に自分で考え決めて実行する。ミスしてもフォローしてくれる人は無く自分で何とかしなくてはならない。面倒なしがらみはないので、やめたければ独断でやめることができる。」（50代男性、個人事業主オーナー）

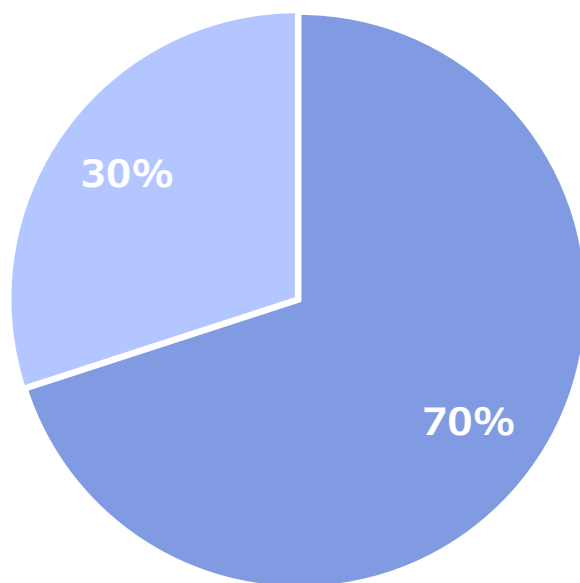
働き方の未来：今後の働き方の広がりの可能性

広義のフリーランスは今後さらに増えていくと予想される

勤務する企業/組織の本業以外で稼げる仕事があるとした場合副業してみたいと思いますか？

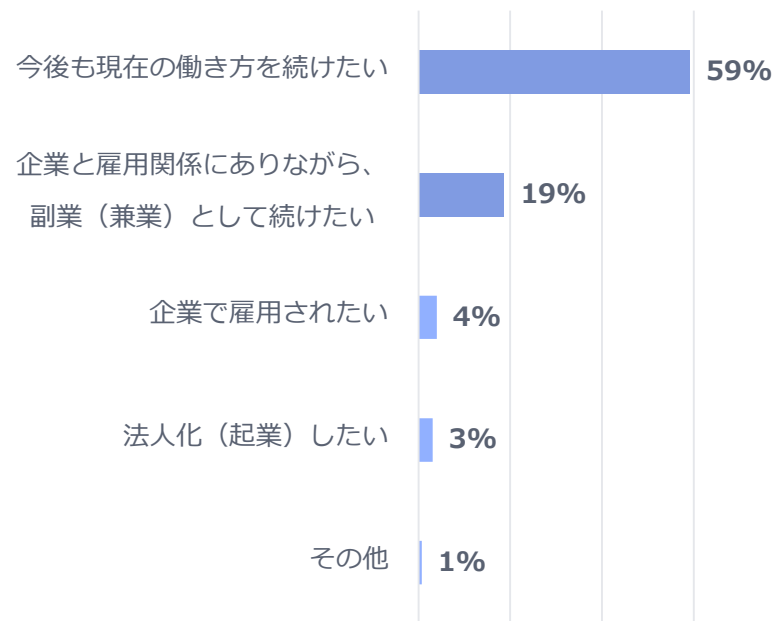
N=1,333*

■ はい ■ いいえ



あなたの今後の働き方としてあてはまるものを選んでください

既存フリーランス対象 N=1,550



* 回答の対象者は、過去12か月の間に仕事の対価として何らかの報酬を得たことのある「ワーカー」のうち、特定の勤務先（企業・組織）があり、かつ副業をしていないワーカー

調査まとめ

調査内容のまとめ

- **日本の広義のフリーランスによる経済規模は20兆円超に**

- 広義のフリーランスは、去年の1,122万人から1,119万人と横ばい
 - 内訳は、副業系454万人、複業系290万人、自由業系53万人、自営業系322万人
- 一人あたり年間報酬額は165万円から186万円に増加し生産性が向上（労働時間は週平均17時間）
 - 特に、自由業系フリーワーカーと副業系すきまワーカーの年間報酬額は昨年比20%以上

- **副業経済は8兆円規模に到達**

- 副業フリーランスの数は744万人に（本業・副業を区別しない複業パラレルワーカーを含む）
 - 複業系パラレルワーカーの人数が昨年に比べると特に増加（276万人から+5%）

- **フリーランスのオンライン化率は15%**

- プラットフォームを活用して働く比率は日本で14%（155万人）から15%（169万人）に増加
 - 一方で、アメリカでは54%（2,970万人）から59%（3,380万人）に増加し、日本の上を行く

- **フリーランスのワーク・ライフ・バランスが向上**

- フリーランスを続けるモチベーションとして44%の人が「時間と場所にとらわれない自由で柔軟な生活」を挙げている一方、45%の人は「収入の不安定さ」をフリーランスを続ける上での障壁と考えている
- 昨年と比較すると、満足度は「ワークライフバランスが良くなった」の回答が増加（28%⇒31%）、モチベーションは「友人や家族との時間を増やすことができる」の回答が増加（19%⇒21%）

- **未来の働き方において、多様な働き方の選択肢が増え、雇用体系が流動化していく**

- 正社員で働きながらフリーランスをする副業すきまワーカーを経て、自由業系フリーランスや個人独立オーナーとして独立するケースも見られる。また、雇用に戻るケースも一定数生まれている
- 副業をしてみたいという個人は70%、フリーランスを継続したい人は78%。今後も広義のフリーランスは増え、オンライン化しつつ仕事と余暇の境界線は曖昧になっていくと考えられる